様式３
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻	5人	5人	2人	1人	13人	6人	11人	0人	39人	12.2人	
計	5人	5人	2人	1人	13人	6人	11人	0人	39人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基礎	数学	15	竹歳　賢一	兼任
基礎	科学的思考の基礎	物理学	15	竹歳　賢一	兼任
基礎	科学的思考の基礎	生物学	15	平田　孝	専任
基礎	科学的思考の基礎	化学	15	三井　哲裕	兼任
基礎	科学的思考の基礎	生活科学	15	吉井　珠代	兼任
基礎	科学的思考の基礎	統計学基礎	15	大谷　昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	医療統計学	15	大谷　昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	情報リテラシー入門	15	大谷　昇治	兼任
基礎	科学的思考の基礎	健康科学入門	15	小島　理永	兼任
基礎	科学的思考の基礎	医学英語	15	目片　幸二郎	兼任
基礎	科学的思考の基礎	基礎英語	15	伏木　真理子	兼任
基礎	科学的思考の基礎	英語	15	スコット	兼任
基礎	科学的思考の基礎	日常英語	15	スコット	兼任
基礎	人間と生活	国語表現法	15	川合　洋子	兼任
基礎	人間と生活	文章表現法	15	林﨑　治恵	兼任
基礎	人間と生活	論文読解法	15	川合　洋子	兼任
基礎	人間と生活	論文作成法	15	川合　洋子	兼任
基礎	人間と生活	文学	15	林﨑　治恵	兼任
基礎	人間と生活	教育学	15	森　由香	兼任
基礎	人間と生活	心理学	15	田端　拓哉	兼任
基礎	人間と生活	社会学	15	渡辺　翔平	兼任
基礎	人間と生活	社会福祉学	15	石川　肇	兼任
基礎	人間と生活	コミュニケーション論	15	田端　拓哉	兼任
基礎	人間と生活	人間関係学	15	藪中　佑樹	兼任
基礎	人間と生活	接遇技術演習	15	西川　信子	兼任

基礎	人間と生活	笑い学	15	岡田　守弘	兼任
基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅰ（動物介在療法等）	10	野口　裕美	専任
基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅱ（絵画療法等）	15	有賀　喜代子 叶　雅夫	兼任
基礎	人間と生活	アクティビティ論Ⅲ（音楽療法等）	15	巽　成己	兼任
基礎	人間と生活	健康科学	15	井上　直人 西田　昌平	兼任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	小西啓悦	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学Ⅰ	15	小西啓悦	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅱ	30	小西啓悦	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学Ⅱ	15	小西啓悦	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	人体解剖学	30	小西啓浩	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅰ	30	三谷　章	兼任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅱ	30	三谷　章	兼任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学入門	15	青木　修	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学	15	本田寛人	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学実習	24	本田寛人 宮本　靖	専任 専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床運動学	24	本田寛人	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	15	向井公一	専任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	発達心理学	15	四辻伸吾	兼任
基礎専門	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学	15	森石加世子	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	戸田好信	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	15	藤井 隆 橋本　章司	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	15	木村友厚	専任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学	15	植木秀伍	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	髙橋　隼 正木　慶大 嶋　健作	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床精神医学	15	髙橋　隼 正木　慶大 嶋　健作	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	15	松尾康史	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	スポーツ医学	15	大久保衛 橋本　雅至	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	脳神経外科学	15	細見晃一	兼任

基礎専門	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	老年医学	15	金馬敬明	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテー ション医学	8	森永敏博	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	医学概論	8	廣島和夫	兼任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	公衆衛生学	8	長野　聖	専任
基礎専門	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急法	8	木下　隆	兼任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテー ション概論	8	森永敏博	兼任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	作業療法概論	15	杉原勝美	専任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	基礎看護学 概説	8	藤永新子 江島仁子 宇野真由美 佐藤寿哲 冨川明子 記村聡子	兼任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	障害者福祉論	8	石川　肇	兼任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	チーム医療論	8	雨夜勇作 野口裕美	専任
基礎専門	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	死生学	8	桑原英之	兼任
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	15	長野　聖 川﨑　純	専任
専門分野	基礎理学療法	理学療法 入門Ⅰ	8	雨夜勇作 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美	専任
専門分野	基礎理学療法	理学療法 入門Ⅱ	8	雨夜勇作	専任
専門分野	基礎理学療法	理学療法 研究論	15	本田寛人	専任
専門分野	基礎理学療法	理学療法 ゼミナール	15	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	基礎理学療法	卒業研究	15	青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任

専門分野	理学療法管理学	理学療法 管理学	15	長野　聖	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法 評価学	15	北垣和史	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法 評価学実習Ⅰ	24	北川智美 雨夜勇作	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法 評価学実習Ⅱ	24	北川智美	専任
専門分野	理学療法評価学	臨床理学療法 評価学演習Ⅰ	15	青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	理学療法評価学	臨床理学療法 評価学演習Ⅱ	15	青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	理学療法評価学	運動発達 障害評価学	15	向井公一	専任
専門分野	理学療法治療学	運動療法 学概論	15	北垣和史	専任
専門分野	理学療法治療学	運動器系 運動療法学	15	青木　修	専任
専門分野	理学療法治療学	運動器系運動 療法学実習	24	木下和昭	専任
専門分野	理学療法治療学	神経系 運動療法学	15	松木明好	専任
専門分野	理学療法治療学	神経系運動 療法学実習	24	松木明好	専任
専門分野	理学療法治療学	内部障害系 運動療法学	15	北垣和史 本田寛人	専任
専門分野	理学療法治療学	運動発達 障害治療学	15	向井公一	専任
専門分野	理学療法治療学	物理療法学	15	川﨑　純	専任
専門分野	理学療法治療学	物理療法学 実習	24	川﨑　純	専任
専門分野	理学療法治療学	日常生活動 作障害学	15	向井公一	専任

専門分野	理学療法治療学	日常生活動作 障害学実習	24	北川智美	専任
専門分野	理学療法治療学	義肢装具学	15	青木　修 長野　聖	専任
専門分野	理学療法治療学	義肢装具学 実習	24	青木　修 長野　聖	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 総合演習 (OSCE)	15	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 実習Ⅰ (運動器 疾患分野)	24	木下和昭 青木　修	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 実習Ⅱ (中枢神経 疾患分野)	24	松木明好	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 実習Ⅲ (内部障害疾患 ・生活支援分野)	24	北垣和史 北川智美 本田寛人	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 特論Ⅰ	15	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	理学療法治療学	理学療法 特論Ⅱ	15	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任

専門分野	理学療法治療学	理学療法 特論Ⅲ	15	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	理学療法治療学	スポーツ リハビリ テーション 概論	15	川﨑　純 中島明子	専任 兼任
専門分野	理学療法治療学	スポーツ リハビリ テーション学	15	木下和昭 青木　修	専任
専門分野	理学療法治療学	障がい者 スポーツ リハビリ テーション 学	15	川﨑　純	専任
専門分野	地域理学療法学	地域 リハビリ テーション 原論	8	野口裕美	専任
専門分野	地域理学療法学	地域理学 療法学	8	長野　聖	専任
専門分野	地域理学療法学	リハビリ テーション 工学	8	三井哲裕	兼任
専門分野	地域理学療法学	地域 リハビリ テーション 研究	8	雨夜勇作 野口裕美	専任
専門分野	地域理学療法学	海外地域 リハビリ テーション 実習	24	青木　修	専任
専門分野	臨床実習	見学実習 （検査・測定含）	24	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任

専門分野	臨床実習	評価実習	96	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	臨床実習	総合臨床実習	336	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	臨床実習	地域 リハビリ テーション 実習Ⅰ	24	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	臨床実習	地域 リハビリ テーション 実習Ⅱ	24	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任
専門分野	臨床実習	地域 リハビリ テーション 実習Ⅲ	24	雨夜勇作 青木　修 長野　聖 松木明好 木下和昭 向井公一 宮本　靖 北川智美 本田寛人 川﨑　純 北垣和史	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（検査・測定含む）	1年 前期	リハビリテーション概論	1年 前期
見学実習（検査・測定含む）	1年 前期	作業療法概論	1年 前期
見学実習（検査・測定含む）	1年 前期	理学療法概論	1年 前期
見学実習（検査・測定含む）	1年 前期	理学療法入門Ⅰ	1年 前期
見学実習（検査・測定含む）	1年 後期	理学療法入門Ⅱ	1年 後期
見学実習（検査・測定含む）	1年 後期	理学療法評価学	1年 後期
評価実習	2年 前期	理学療法評価学実習Ⅰ	2年 前期
評価実習	2年 前期	運動療法学概論	2年 前期
評価実習	2年 後期	理学療法評価学実習Ⅱ	2年 後期
評価実習	2年 後期	運動器系運動療法学	2年 後期
評価実習	2年 後期	神経系運動療法学	2年 後期
評価実習	2年 後期	地域リハビリテーション原論	2年 後期
評価実習	3年 前期	内部障害系運動療法学	3年 前期

総合臨床実習	3年 前期	運動器系運動療法学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	神経系運動療法学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	内部障害系運動療法学	3年 前期
総合臨床実習	3年 前期	日常生活動作障害学実習	3年 前期
総合臨床実習	3年 後期	理学療法総合演習（OSCE）	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	理学療法実習Ⅰ（運動器疾患分野）	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	理学療法実習Ⅱ（中枢神経疾患分野）	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	理学療法実習Ⅲ（内部障害疾患・生活支援分野）	3年 後期
総合臨床実習	3年 後期	地域リハビリテーション研究	3年 後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点・自己検評価委員会
委員名（委員長）	学長
組織の開催頻度	2ヵ月に1度
組織の取り組み内容	・自己点検・評価の基本方針及び実施計画の策定に関する事項
	・自己点検・評価結果報告書の作成及び公表に関する事項
	・自己点検・評価に基づく改善策等の推進
	・認証評価の受審に関する事項
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://un.shijonawate-gakuen.ac.jp/guide/disclosure.html ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	リハビリテーション学部教務委員会
	委員構成等	各専攻の教務委員
	改善の仕組みの実際	リハビリテーション学部教務委員会で、全シラバスを点検し、科目担当教員に適宜修正を依頼。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

大学共通のシラバスの手引きを基にシラバスを作成し、教務委員会でシラバスを点検している。また学生に対して授業評価アンケートを実施し、授業改善のためのフィードバックをFD委員会から科目担当教員へ実施し、内部質保証に努めている。